

2024 年度 学校自己評価報告書

常翔学園中学校・高等学校
学校自己評価委員会

I. 学校自己評価の目的

本校の教育活動等の成果を検証し、必要な支援・改善を行うことにより、生徒がより良い教育活動等を享受できるよう学校運営の改善と発展を目指し、教育水準の向上と保障を図ることが重要である。

そのため、学校の教育活動その他の学校運営の状況について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取り組みの適切さ等について評価することにより、教職員が現状や課題意識を共有し、学校として組織的・継続的な改善を図る。

II. 実施方法

実施日：2025年1月15日（水）Google Forms を用いて質問配付〔資料1〕

1月22日（水）入力締切

調査対象：本校教職員全員（非常勤講師、助手、臨時要員は除く）

評価項目：1. 学校運営に関すること 2. 教務、教科指導に関すること 3. イノベーション教育に関すること 4. 生徒指導に関すること 5. 進路指導に関すること
6. 保健室に関すること 7. 募集活動に関することの7分類について、それぞれに評価の観点項目を設けて評価を行った。〔資料1参照〕

なお、評価結果を検討するにあたり参考データとして「職域」「本学園の勤務年数」の調査（基礎調査）も行った。

評価方法：1.よくあてはまる 2.ややあてはまる …… プラス評価
3.あまりあてはまらない 4.まったくあてはまらない …… マイナス評価
の4段階で行った。

集計結果については、人数と割合で示している。さらに割合は

1.よくあてはまる（1点） 2.ややあてはまる（0.5点）
3.あまりあてはまらない（-0.5点） 4.まったくあてはまらない（-1点）

とし、それぞれ割合に上記点数を掛けたものの総和を「加重」欄にグラフ化し、+100～-100の範囲で点数化して示した。

* 部署ごとにPDCAを実施していることから、報告書では部署ごとに出た意見を集約している。また各項目の評価・分析等も該当する部署が検討し、記入した。

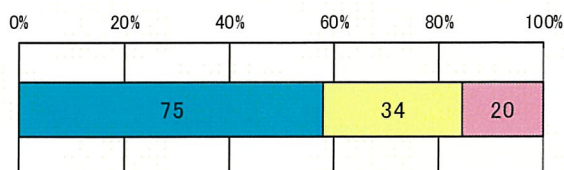
III. 「将来像」と2024年度の「重点目標」

将来像	人々が幸福で平和に生きることができる世の中を創るため、生徒中心の教育を重視し、グローバルシチズンシップを身につけた自律的学習者を育成する教育推進校となる。
今年度の重点目標	① 自律的学習者育成に向けた授業改善と生徒の主体性を重視する教育 ② 学園内連携を更に発展させ、目的ある進学を実現する進路支援へ ③ 海外修学旅行の目的明確化と語学研修・姉妹校交流等の充実

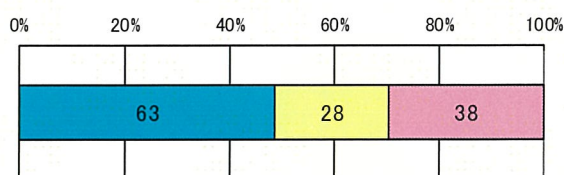
Ⅳ. 基礎調査（職域、本学園の勤務年数）

調査1（基礎調査）

職 域	人数	割合（％）
1. 専任教諭	75	58.1％
2. 特任教諭	34	26.4％
3. 事務職員	20	15.5％
合 計	129	100.0％



本学園の勤務年数	人数	割合（％）
1. 10年未満	63	48.8％
2. 20年未満	28	21.7％
3. 20年以上	38	29.5％
合 計	129	100.0％

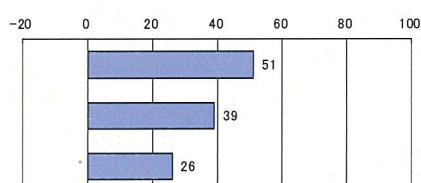
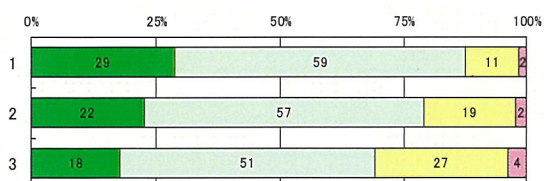


Ⅴ. 自己評価報告

1. 学校運営に関すること①

学校運営に関すること①

		1:よくあてはまる	2:ややあてはまる	3:あまりあてはまらない	4:まったくあてはまらない	評価(人数)				評価割合(%)				加重	前年度実績	今年度目標	次年度目標
評価項目	No	設問				1	2	3	4	1	2	3	4				
建学の精神・愛校心	1	建学の精神が教職員、生徒、保護者によく浸透し、在校生、卒業生は学校に誇りを持っている。				37	76	14	2	29	59	11	2	51	54	60	55
中学校・高校の経営	2	中学校・高校の予算、決算の仕組みや財務状況を意識した学校運営をしている。				29	73	24	3	22	57	19	2	39	44	50	45
学園の各組織	3	評議員会、理事会など、学園の各組織の役割や機能について理解している。				23	66	35	5	18	51	27	4	26	37	40	40



【評価と次年度の目標について】

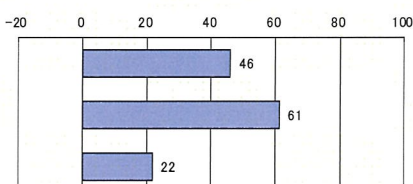
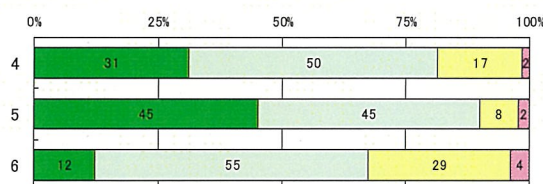
この項目では全てにおいて、2年連続で前年度の評価を下回っている。「**建学の精神・愛校心**」については、新入生オリエンテーションで自校史教育を実施することになっているが、今年度より生徒主体の行事に変更したため、あまり触れられなかった。常翔歴史館を見学する機会を設けるなど、更なる施策を検討する必要がある。高校校友会主催で実施する「はたちの集い」や「卒業5年目、10年目の合同クラス同窓会」などは認知されてきたが、参加者が一貫コース卒業生に偏っているので、高校から入学した生徒の参加者が増えるように、担任教員の協力を求めたい。

「**中学校・高校の経営**」「**学園の各組織**」については例年評価が低い項目である。働き方改革が進む中で、職員会議をはじめとした各種会議の時間を短縮しているが、学園組織についての説明に関しては、時間を取って実施していないので、若手や中堅教員があまり関心を示していないように思われる。経営者感覚を持って主体的に動く中間管理職の養成は急務であるが、それと同時に全教職員が当事者意識を持って業務に取り組む雰囲気作りも大切である。

学校運営に関すること②

学校運営に関すること②

1:よくあてはまる		2:ややあてはまる		3:あまりあてはまらない		4:まったくあてはまらない									
評価項目	No	設問	評価(人数)				評価割合(%)				加重	前年度 実績	今年度 目標	次年度 目標	
			1	2	3	4	1	2	3	4					
教職員の連携	4	事務職を含む教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて業務が遂行されている。	40	65	22	2	31	50	17	2	46	56	60	55	
学校間連携	5	学園のスケールメリットを生かし、他の設置校と協力し、魅力ある学校作りを実施している。	58	58	10	3	45	45	8	2	61	52	60	65	
会議の有効性	6	必要かつ適切に会議が設定され、有効で効率的な議論が行われている。	16	71	37	5	12	55	29	4	22	32	40	40	



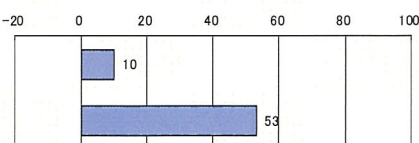
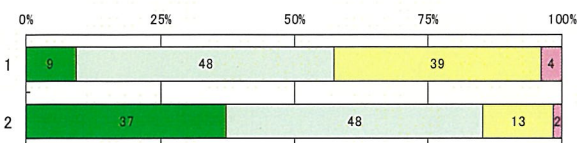
【評価と次年度の目標について】

「**学校間連携**」については、過去10年間で2番目の高さで目標を達成した。2022年度から実施している常翔啓光中高との合同研修会や高校の合同発表会、中学の百人一首交流戦、更に今年度より、高校3年生を対象に合同大学ガイダンスを実施するなど、教職員間、生徒間で交流を持つ機会が増えたことが要因だと考えられる。学校間連携推進委員会ともうまく協力し、次年度以降、更なる充実を図りたい。その他の項目はいずれも2年連続前年度を下回り、目標を達成できていない。「**教職員の連携**」については、働き方改革を進めていくに当たり、一人で抱え込むことなく、協力し合おうという雰囲気が生まれてきているが、今年度も長期間の病気休暇を取る教員が複数出たため、周りの教員の負担が増えてしまった可能性がある。該当教員が短期休暇の延長を繰り返し取得した場合は非常勤の採用が難しく、雇用条件も悪くなるので、改善を求めたい。男性教員の育児休暇についても、取得を推奨していく中で、いかに教員間でのサポートができるかが重要となる。「**会議の有効性**」についても、会議時間の短縮は実現できているが、報告が中心となり、教職員の当事者意識を高めることができていない可能性がある。会議資料をiPadで事前配信するなど、効率化が進んでいるが、印刷をしない分資料が増えて、消化不良を起こしているように感じられる。この数年の報告書でも指摘しているが、チェック機能が若干低下している傾向にあるので、会議のあり方について、「教員の働き方改革」と併せて改善したい。

学校運営に関すること③

学校運営に関すること③

1:よくあてはまる 2:ややあてはまる 3:あまりあてはまらない 4:まったくあてはまらない														
評価項目	No	設問	評価(人数)				評価割合(%)				加重	前年度 実績	今年度 目標	次年度 目標
			1	2	3	4	1	2	3	4				
地域交流	7	地域の自治体や住民との交流ができています。	12	62	50	5	9	48	39	4	10	11	20	20
授業等公開状況	8	保護者などに授業や発表会を公開する機会があり、積極的に広報されている。	48	62	17	2	37	48	13	2	53	44	55	55



【評価と次年度の目標について】

「**地域交流**」については、従来から評価が低い項目である。生徒による地域清掃活動や淀川マラソンなど地域行事へのボランティア活動を通じて、地域交流を増やすようにしたい。昨年度か

ら、卒業生や地域住民の文化祭への招待を復活させているが、その告知をしっかりと発信したい。

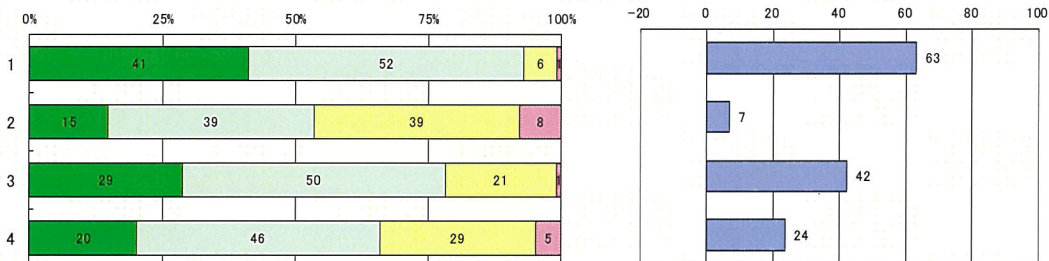
「授業等公開状況」は、積極的に外部からの視察を受け入れると共に、各種行事でも収容能力の許す限り、保護者が参加できるようにした。以前実施していた公開授業（授業参観）についても、中学において、学年別に保護者会前に実施するようにした。ただ、高校に関しては、実施する際の負担が大きいため、今のところは再開をしない予定である。

学校運営に関すること④

学校運営に関すること④

1:よくあてはまる 2:ややあてはまる 3:あまりあてはまらない 4:まったくあてはまらない

評価項目	No	設問	評価(人数)				評価割合(%)				加重	前年度実績	今年度目標	次年度目標
			1	2	3	4	1	2	3	4				
教員の資質向上	9	授業力向上のため、教員間で授業を公開し、教科会などで意見交換を行っている。	53	67	8	1	41	52	6	1	63	65	70	70
初任者のサポート状況	10	初任者等、経験の少ない教員を学校全体でサポートする体制が整備されている。	19	50	50	10	15	39	39	8	7	7	20	20
校内外の研修	11	校内外において、各教員が計画的、積極的に研修に参加し、教員間で情報を共有している。	37	64	27	1	29	50	21	1	42	56	60	55
読書推進	12	図書館の利用促進を図るなど、読書指導に取り組んでいる。	26	59	38	6	20	46	29	5	24	30	40	35



【評価と次年度の目標について】

2022 年より教員免許更新制が解消されたことに伴い、教育イノベーションセンターや教務部等による校内研修を充実するようにしている。特にグローバル探究コースの新設にむけて、教科間連携（CLIL）を意識したいくつかの授業が公開研究授業で行われた。学園人事課や渉外室等から提供される e-learning 動画研修教材等についても未受講者への呼びかけ受講を促すなど、積極的に活用している。また、2023 年度より教員に研修履歴を記録することを義務づけている。

「教員の資質向上」のポイントは今年度も下がっているが、この数年、比較的高い評価を維持している。

「初任者のサポート状況」は、常に低迷している項目である。多くの若手教員は教員経験が浅い中で、担任や部活動といった職務を負担に感じている者が多い。働き方改革でできるだけ負担軽減を目指しているが、部活動指導や生徒募集業務、保護者対応など、どれだけ負担を教員間で分かち合えるかが重要となってくる。2023 年度から、部活動の担当を希望制としたが、生徒のことを考え、相変わらずそのまま部活担当を継続するベテラン教員が多い。教員を希望する若者が減少し、教員不足が深刻化している中、喫緊の課題である。

「校内外の研修」は他校での研修にも積極的に参加する教員が増えているものの、研修履歴に必要な最低限の研修を受講することにとどまっている教員も少なくない。本校が教育先進校として、「学習する組織」を目指していることから、研修文化を根付かせることは最も注目すべき項目である。

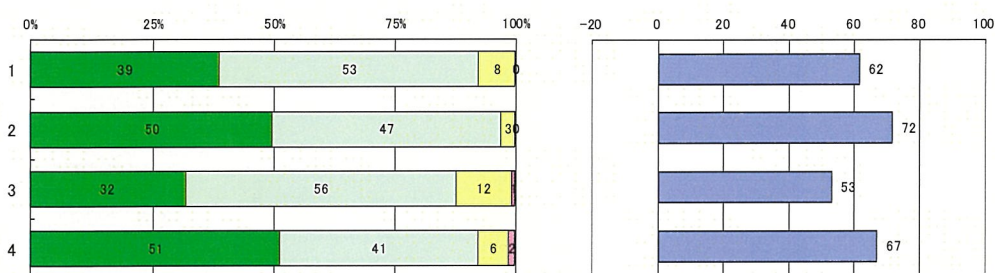
「読書推進」については評価が下がったが、この数年、中学校で「ビブリオバトル」の大会に参加するなど、国語科を中心に積極的な取り組みが見られる。また、府立中央図書館主催 POP コンテストの中学生の部で、中学 1 年生が最優秀賞を受賞するなど、読書への関心を高める取り組み

組を進めている。大学入試においても、国語や英語を中心に読解力が求められる問題が増えて
いるため、図書館と国語科を中心に各教科が連携し読書運動をさらに盛り上げる必要がある。

2. 教務、教科指導に関すること

教務、教科指導に関すること

1:よくあてはまる		2:ややあてはまる		3:あまりあてはまらない		4:まったくあてはまらない									
評価項目	No	設問	評価(人数)				評価割合(%)				加重	前年度 実績	今年度 目標	次年度 目標	
			1	2	3	4	1	2	3	4					
学習指導要領の対応 状況	13	教育課程は学習指導要領に沿って編成されており、各教科のシラバスに反映している。	50	69	10	0	39	53	8	0	62	64	70	70	
学習指導	14	学習指導において、生徒の実態に合わせた指導方法の工夫・改善を行っている。	64	61	4	0	50	47	3	0	72	69	75	75	
人権教育	15	人権尊重に関する課題や指導方法を研究し、生徒の意識を高める教育を行っている。	41	72	15	1	32	56	12	1	53	45	55	55	
スポーツ・芸術文化	16	スポーツ活動、芸術文化活動を計画的に教育活動に取り入れている。	66	53	8	2	51	41	6	2	67	68	75	75	



【評価と次年度の目標について】

「**学習指導要領の対応状況**」については、2ポイント減であった。新学習指導要領下において三観点評価が実施され、各教科において新しい授業作り（アクティブラーニング等）の取り組みを継続して行っているにもかかわらず、ポイントが上昇しなかった。教員の意識は高まっているが、シラバス等のコンテンツが不十分であるのが原因ととらえ、改善したい。今後も、学校・教科ループリックを活用して生徒の現状を把握するとともに、外部から講師を招くだけでなく自校教員による教科内の研修を行い、次年度に向けてさらなる授業の充実を期す。

「**学習指導**」については、3ポイント増であった。コロナ禍を経て、本校の教育活動も完全に戻り、かつ学級閉鎖時におけるオンライン授業の態勢も整っている。2022度から第1学期中間テストを廃止、日々の学習におけるスモールステップを大切にしつつ、アクティブラーニング等の授業も行われている。新学習指導要領下において、知識・技能のみならず、思考力・判断力・表現力も伸長させ、主体性を涵養する教育にスムーズに移行したと考える。

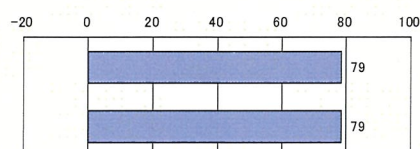
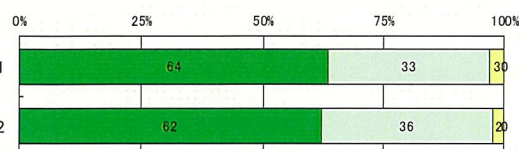
「**人権教育**」については、前年度から8ポイント増の53ポイントとなり、良好な結果となった。教務部においてこれまでの本校における人権教育を根本的に見直し、再体系化を開始した結果である。これまで孤立していた人権教育を本校教育の中に位置づけ、各教科との連携を図り、人権教育委員会を中心にその内容を整理、従来からの形式は残しつつ、新しい時代に対応していくために作業を進めている。特に、中学校においては、道徳の授業の中で人権教育を実践し始めたので、その成果が期待できる。

「**スポーツ・芸術文化**」については、前年度から1ポイント減の67ポイントで、ほぼ現状維持であった。コロナ禍も終わり、体育祭、文化祭も平常に戻っている。芸能鑑賞や球技大会も行い、中学校においてはより文化的要素を高めた文化祭を志向することに加え、百人一首大会も盛況であった。中学校・高校とも学校行事のラインナップは十分だと考えている。また、行事の事前・事後にループリック調査を励行、本校教育の目的・目標を常に意識したものにしていきたいと考えている。

3. イノベーション教育に関すること

イノベーション教育に関すること

評価項目	No	設問	評価(人数)				評価割合(%)				加重	前年度実績	今年度目標	次年度目標
			1	2	3	4	1	2	3	4				
新しい教育への取り組み	17	ICT教育、アクティブ・ラーニング、キャリア教育など、新しい教育に学校全体で意欲的に取り組んでいる。	82	43	4	0	64	33	3	0	79	83	85	85
国際理解・交流	18	他国の歴史・文化を理解し、積極的に海外の人々や学校と交流をしている。	80	46	3	0	62	36	2	0	79	77	75	75



【評価と次年度の目標について】

「新しい教育への取り組み」のポイントは目標を6ポイント下回ったが、前年度実績に近かった。本校の教育活動全般にICT教育が十分に浸透し、各教員のオンライン授業のスキルもそれぞれさらに向上し、iPadの利用やデジタル教材の活用が多くなってきた。いつオンライン授業になっても対応できる態勢になっていることはアフターコロナの大きな成果である。対面授業・オンライン授業の両方に対応できる教員が年々多くなっている。

また、座学中心であった授業形態から、アクティブラーニング形式の授業やグループ学習、ペアワークなど様々な形式の授業も増えつつあり、それにより主体的に学ぶ自律的学習者もかなり増えてきた。キャリア教育についても、各教員が熱心に取り組を行い、新しい教材も開発し、生徒への指導スキルも年々向上している。

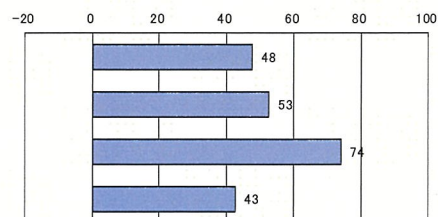
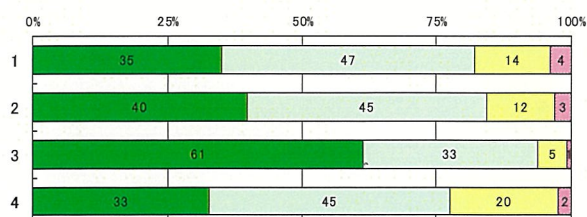
「国際理解・交流」については、前年度とほぼ横ばいのポイントであった。2023年度から海外研修（オーストラリア語学研修、セブ島英語研修プログラム）が復活し、海外（今年度はアメリカ、オーストラリア、インド、韓国、中国、台湾）から本校を訪問、交流する学校が増えた。ターム留学も毎年何名か生徒が参加しており、留学生や海外から来校する生徒をホストファミリーとして、一定期間受け入れる家庭も増えてきた。今後も校内での Basic English Camp（高1）や Global Leaders Camp（高2）への参加を促すなど、国際交流全般に力を入れていきたい。

4. 生徒指導に関すること①

生徒指導に関すること①

1:よくあてはまる 2:ややあてはまる 3:あまりあてはまらない 4:まったくあてはまらない

評価項目	No	設問	評価(人数)				評価割合(%)				加重	前年度実績	今年度目標	次年度目標
			1	2	3	4	1	2	3	4				
指導方針の一貫性	19	教員間や生徒の家庭とも連携し、統一した生徒指導を行っている。	45	61	18	5	35	47	14	4	48	48	60	55
生徒会活動	20	生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動できるよう学校全体で支援している。	51	58	16	4	40	45	12	3	53	54	60	60
学校行事	21	体育祭、文化祭などの学校行事を活発に行っている。	79	42	7	1	61	33	5	1	74	70	75	75
ボランティア	22	地域の自治体や住民と連携し、ボランティア活動を活発に行っている。	42	58	26	3	33	45	20	2	43	23	30	45



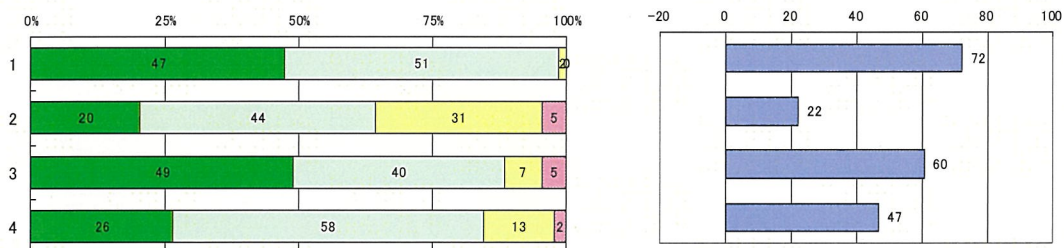
【評価と次年度の目標について】

「指導方針の一貫性」は昨年度と変わらない結果となり、目標達成とは至らなかった。また今年度も「生徒会活動」について、4名から「全く当てはまらない」とする回答があり、1ポイント減となったことから、この活動に対して教職員に未だ周知できていない部分があると考え、次年度に向けて、よりよい周知方法を見出していきたい。「学校行事」については前年度より4ポイント増え、ほぼ目標を達成できた。体育祭や球技大会をはじめとした様々な活動を活発にしていくための工夫をし、更なるポイントの向上につなげたい。「ボランティア」については、校内での活動は多くの行事において行っている。校外での活動においては、今年度能登ボランティアへ希望者を募って実施出来たことが20ポイント上昇に繋がったと考えられる。今後も継続的に校外での活動が実施できるよう、周知していきたい。今後、中学校も含めた生徒会活動を活性化し、中高一体となった活動を構築していきたい。また、活動の情報を広く発信し周知させることで、学外活動にも目を向けて学校全体の活性化を図っていきたい。

生徒指導に関すること②

生徒指導に関すること②

評価項目	No	設問	評価(人数)				評価割合(%)				加重	前年度実績	今年度目標	次年度目標
			1	2	3	4	1	2	3	4				
いじめ防止対策	23	生徒の細かな変化を教員間で共有し、いじめの早期発見、防止に努めている。	61	66	2	0	47	51	2	0	72	66	75	75
環境問題	24	生徒に清掃、校内美化を取り組ませることによって、環境問題にも関心を持たせている。	26	57	40	6	20	44	31	5	22	25	40	40
部活動	25	生徒が心身共に成長するよう、積極的に部活動を推進している。	63	51	9	6	49	40	7	5	60	54	65	65
情報モラル指導	26	SNSの利用に伴う責任等、情報のモラル面の教育に十分にに取り組んでいる。	34	75	17	3	26	58	13	2	47	44	50	50



【評価と次年度の目標について】

「いじめ防止対策」について、前年度より6ポイント上昇したものの、目標達成に至らなかった。いじめに関する取り組みや活動報告などの機会を作ることで、その実態を周知していきたい。

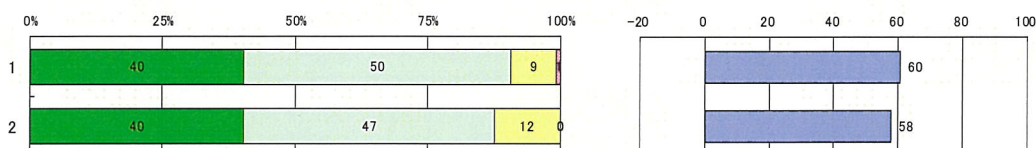
「環境問題」については3ポイント下降しており、引き続き目標値には程遠い評価である。これは、主となる問題に取り組めていないことが要因である。今後も教室でのゴミの完全分別収集を行うことや、エコ活動の推進に努めていく中で、目標達成を目指すとともに、生徒の意識向上を促すために、更なる対策が必要と考える。新たな活動を取り入れることも視野に臨んでいく必要があると考える。「部活動」については、6ポイント上昇したものの目標値には5ポイント及ばなかった。以前よりも特進系コースの部活生徒が増加傾向にあり、学力強化のための補講やカリキュラムによる活動時間の制約を受ける生徒が増加していることが影響しているのではないかと考える。また、中学校の部活動においては、週3日のみという制約のため、部活動生が満足のいく活動ができていないことが要因の一つと考える。生徒が心身ともに成長していくためには、積極的な部活動への参加を推進できるように、活動日の設定の見直しが必要ではないか。「情報モラル指導」については前年度より3ポイント上昇したが、目標値には届いていない状況である。全校生徒が

タブレットを持ったことで情報モラルの重要性への意識は高まっているが、更に、講習会や研修といった事でモラル向上に繋げ、意識向上に努めたい。

5. 進路指導に関すること

進路指導に関すること

評価項目	No	設問	評価(人数)				評価割合(%)				加重	前年度実績	今年度目標	次年度目標
			1	2	3	4	1	2	3	4				
進路指導	27	生徒一人ひとりの興味・関心・適性に応じた進路選択ができるような支援体制を整備している。	52	65	11	1	40	50	9	1	60	64	70	70
内部進学	28	学園内大学と連携し、多くの生徒が学園内大学に進学できるよう指導に取り組んでいる。	52	61	16	0	40	47	12	0	58	59	70	70



【評価と次年度の目標について】

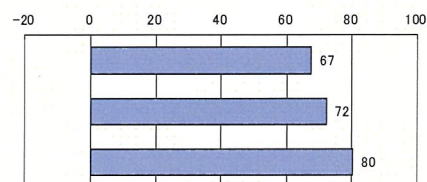
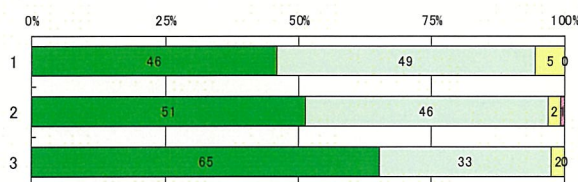
「**進路指導**」については、4ポイント減であったが、それぞれの学年に応じた支援を行っている。高校1年生は、様々な学部 of 学びについて知るために学園内大学説明会を実施している。この説明会は学園内大学への意識を醸成することも目的としている。高校2年生は11大学から協力を得て、33分野の学び群の模擬授業を体験する機会を設けている。高校3年生は関西の私立大学を中心に説明会を実施し、個々の進路選択ができるように支援している。また、各学年コースの促しもあり、早期から数多く開催されている説明会やオープンキャンパスに参加する生徒も増加している。総合型選抜や学校推薦型選抜への出願に向けての教員の意識も高く、出願数も増加している。次年度は海外大学進学説明会の実施も予定しており、生徒それぞれの興味・関心・適性に応じた進路選択のために支援体制を整える。

「**内部進学**」については、1ポイント減であり、前年度とあまり変化はない。全教員対象に学園内大学の理解を深めるため説明会を毎年実施しており、学園内大学への関心を高める取り組みを継続している。今年度は学園内大学に対する理解を早期から醸成するため、高校1年生を対象に学園内大学の説明会を実施した。次年度も継続し、学園内大学への関心を高めていく。大阪工業大学については内部推薦を含めた学校推薦型入試による入学手続者数は12名増加している。学園内全体としては内部進学推薦者は昨年度と同数である。大阪工業大学、摂南大学では保護者生徒対象の説明会において大学構内のキャンパスツアーもあり、好評である。広島国際大学のオープンキャンパスツアーにも中学生を含む多くの生徒保護者が参加している。今後も学園内大学に関する行事を通して関心を高め、進学者数を増加させたい。

進路指導部室への来室生徒が年々増え、学園内大学だけでなく国公立大学を含む学園外の大学、専門学校、就職など相談内容も多岐にわたっている。生徒一人ひとりの進路実現のため、引き続き生徒面談や進路関係行事などを通して細やかな支援体制を充実させていく。

6. 保健室に関すること

1:よくあてはまる 2:ややあてはまる 3:あまりあてはまらない 4:まったくあてはまらない																	
評価項目	No	設問	評価(人数)				評価割合(%)				加重	前年度 実績	今年度 目標	次年度 目標			
			1	2	3	4	1	2	3	4							
健康に関する指導	29	健康的な生活習慣をおくするように指導している。	59	63	7	0	46	49	5	0	67	71	75	70			
カウンセリング体制	30	不登校生徒や特別な配慮が必要な生徒の情報を教員間で共有し、必要に応じてスクールカウンセラーを勧めている。	66	59	3	1	51	46	2	1	72	71	75	75			
危機管理への対応	31	防災訓練やAED講習会を実施し、学校の安全対策に努めている。	84	42	3	0	65	33	2	0	80	85	85	83			



【評価と次年度の目標について】

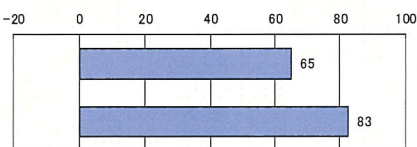
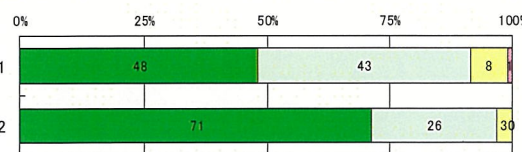
「健康に関する指導」のスコアは目標に8ポイント足りなかった。今年度はインフルエンザが猛威を振るい、引き続き感染症予防についての保健指導を実施してきたが、新型コロナウイルス感染症と比べると生徒と保護者、教職員の意識が薄かったため今回ポイントを下げたと考えられる。今後も毎月発行の「保健だより」については、配付時期に合った保健指導の取り組みとして継続していきたい。

「カウンセリング体制」のスコアも目標に3ポイント足りなかったが、昨年度のポイントを上回ることができたことは、相談室の利用を広くすすめてきた成果と考える。教室掲示用の「相談室だより」や、保健室での日々の生徒相談も意識をして取り組んできた。また、サポート委員の先生方をお願いしている学期ごとの「不登校調査」についても引き続き実施していきたい。

「危機管理への対応」のスコアも目標に5ポイント足りず達成できなかった。要因としては、毎年実施している「救急救命講習会(AED講習会)」に新鮮味が薄れてきたことがあるように感じられる。ただ、この講習会は継続することが大切であるので、今後も内容を検討しながら実施しておきたい。また、年2回の部活動リーダー講習会においても救急救命についての講義を続けていきたい。

7. 募集活動に関すること

1:よくあてはまる		2:ややあてはまる		3:あまりあてはまらない		4:まったくあてはまらない													
評価項目	No	設問	評価(人数)				評価割合(%)				加重	前年度 実績	今年度 目標	次年度 目標					
			1	2	3	4	1	2	3	4									
入試業務	32	受験生の安定確保を維持し、各コースに応じた学力を持った生徒を獲得している。	62	56	10	1	48	43	8	1	65	65	70	70					
情報公開	33	学校ホームページなどを通して、本校の魅力や入試に関する情報を積極的に公開している。	92	33	4	0	71	26	3	0	83	85	85	85					



【評価と次年度の目標について】

「入試業務」については昨年度と同じで5ポイント足らず、目標達成には至らなかった。2025年度中学入試では、初日の日程から加点のある特別加点制度(本校第1志望受験生のみ)の導入や、初日午後日程の名称を変更し、特待生での合格者の増加やスーパーJコース合格者の手続き期間を長くするなど特別入試を導入した。初日午前(A日程)の志願者数は昨年度比100.1%とほぼ変化はなかったが、午後入試の3日程については出願者数が増加し、最終的には過去最高

の1014名（合格倍率は1.53倍）となり、学力レベルの向上が目立つ入試となった。しかしながら、多くの上位生徒は併願での受験であり、本校が第1志望となっているわけではない。進学実績と連動する部分があるが、今後の対策としては競合校との差別化を図りながら本校の魅力を発信し、レベルの高い受験生、入学者を獲得していきたい。

「情報公開」についてはおおむね「よくあてはまる」「ややあてはまる」との評価があり、ほぼ目標値に届いている。ホームページのお知らせを高頻度で各担当者が更新していることで、Instagramとともに本校の生徒活動が発信できた結果と思われる。さらに更新頻度を上げながら、ブランド力アップならびに志願者数増につなげたい。

VI. 総合評価と今後の改善方策

本校は学校改革(2004年開始)を始めてから、かなりの年月が経っており、変更した校名(2008年)もすでに定着した。その間、毎年のように多くの新規事業を実行し、どの分野においても概ね発展を遂げてきた。その結果、アンケート結果についても大きな進展がみられる。しかし、年代別の資料の通り、年齢や職域によって違いがあったり、努力はしているもののなかなか改善されない項目も多い。

まず資料3を見ると、全体の加重平均は53.3で、2年連続下がっているものの、比較的高水準を維持している。勤務年数別にみると、10年未満の教員については、少し改善した。20年未満の中堅教職員の平均値は前年度から大きく下がり、9.7ポイント減の55.5であったが、その前の5年間連続で評価が向上しており、数年前より高い数値である。20年以上の教員については、過去5年間はそれほど大きな変化はない。項目によっても大きな違いはあるが、例年と同じく評価は年齢と比例して高くなっている。10年未満の教員の46.2に対し、20年以上は63.5と17.3ポイントも差があり、相変わらず年齢によるおおきな乖離が見られる。また、職域別では特任教諭が低くなっている(43.1)が、数年前(2020年度32.8)に比べ改善している。これまでは、若手教員と特任教諭の値が際立って低かったのは、教員経験が浅い中、担任や部活動といった職務を負担に感じていたのが原因であった。この2、3年は、「働き方改革」で休みが増えたほか、業務が軽減され、早い時間に退勤できていることが、評価全体にいい影響があったと考えられる。事務職員は今年度も8ポイント減と大きくポイントを下げた。これは、今年度事務職員の異動が多く、多くの項目で理解を深めることができなかったことが要因であると考えられる。専任教諭も2年連続下がり55.9となったが、基本的には大きな変化はない。

資料3を項目別に見てみると、例年特に低い項目である「初任者のサポート状況」については、前述の通り、まだまだ改善が望まれる。「会議の有効性」については、会議時間の短縮については実現しているが、全教職員が当事者意識を持って会議に参加するようにしていきたい。

「地域交流」については例年同様低いスコアとなっている。ただ、高校の放送部が旭区主催の短編映画の作成に出演、協力するなど、新たな取り組みを始めており、周知していくようにしたい。「ボランティア」については、大きくポイントが向上した。これは、能登半島震災復興ボランティア活動やチャリティーコンサートなどを行ったことが要因であると考えられる。「国際理解・交流」については、6年ぶりに長期留学生を受け入れたことに加え、海外姉妹校研修ツアーを始めるなど、積極的に海外交流を行ったので、高水準を維持している。「校内外の研修」については、残念ながらポイントが低下した。積極的に校外研修やオンライン研修に取り組む教員とそうでない教員の格差が広がっているように感じる。教育先進校を目指す学校として、働き方改革で労働時間を減らす必要がある一方で、いかに研修の時間を確保するかが今後の課題であろう。

また、分類別に見ると、「教務、教科指導に関すること」で「学習指導要領への対応状況」が3年連続で評価が下降した。大学入試が易化する中で、極端に理系、文系科目によせたカリキュラムでなく、教養を大切にするバランスの良いカリキュラムを組んでいるが、その意図が教員、保護者、生徒にしっかりと伝わっていないことが考えられる。また、「生徒指導に関すること」では、「環境問題」のポイントが低くなっている。今年度からレストランにおいて、従来より細かいゴミの分別をお願いしているが、回収の徹底を指導することや、風紀美化委員会を中心に各行事(文化祭、体育祭)で積極的に活動をしていくことが大切である。

「進路指導に関すること」に関しては、「支援体制」についての項目でポイントを落とした。来年度から進路指導部から進路支援部へ名称変更するが、担任と協力して生徒の進路実現へのサポートを積極的に行いたい。また、中高大連携を意識し、学園内大学への進学者ならびに、理系の選択者を徐々に増やせるようにしたい。「募集活動に関すること」については、高いポイントを維持している。中学校は前年度に比べて、志願者が増加しているだけでなく、入学者の学力は着実に向上している。ただ、募集イベントが多く、日曜祝日に開催される説明会や私学展などの対応で入試部教員が業務過多となっている。

次に資料4の表は、今年度と前年度の「加重ポイント」比較と「プラス評価」とそれぞれの改善度である。今回、「加重ポイント」で前年度より大きく伸びている項目は、「ボランティア」「学校間連携」である。これは教員、生徒共に様々な活動に積極的に取り組んだ成果であると考えられる。

「プラス評価」については、「ボランティア」と「授業等の公開状況」の改善度が高かった。(前年度評価Aの項目が多かった)

●「将来像」と2024年度の「重点目標」について

将来像	人々が幸福で平和に生きることができる世の中を創るため、生徒中心の教育を重視し、グローバルシチズンシップを身につけた自律的学習者を育成する教育推進校となる。
今年度の重点目標	・自律的学習者育成に向けた授業改善と生徒の主体性を重視する教育 ・学園内連携を更に発展させ、目的ある進学を実現する進路支援へ ・海外修学旅行の目的明確化と語学研修・姉妹校交流等の充実

新たな将来像を実現するために、今年度は上の3つの重点目標を掲げた。

教育の目標の「生徒の主体性を重視する教育」については、これまでのキャリア教育や様々な学校行事での取り組みを更に発展させ、生徒が自ら考えて行動できるように、教員がファシリテーターとしての役割を果たすようにした。今年度の行事では、卒業式や入学式、新入生オリエンテーションなど、これまで教員主導で実施してきた行事やイベントが生徒たちの企画、運営の行事に変わりつつある。

「目的ある進学を実現するために進路支援」に関しては、1年次から進路学習に取り組み、学園内のスケールメリットを生かし、多くの生徒たちが学園内大学への進学を目指すようにしたい。高校1年生には、夏休みにオープンキャンパスに行くことを宿題にしているが、学園内大学のオープンキャンパスに参加する生徒が多かった。生徒や保護者だけではなく、教職員にも積極的に学園内大学の情報を得られる機会を設け、学園へのロイヤリティを高めていきたい。

「海外修学旅行の目的明確化と語学研修等の充実」に関しては、グローバルシチズンシップを身につけさせるため、観光旅行を目的としない研修としての修学旅行の実施、および海外からの訪問校の積極的な受け入れを行っている。今年度は前年度に引き続き、海外への修学旅行を行ったが、来年度から行き先を変更し、更に改善を図っていく。

今年度の重点目標は3つ掲げているが、いずれも私学の根幹となる特色教育や学習指導に繋がるものであり、前述の評価項目全てに連動するもので、バランスの取れた評価が重点目標達成の上で重要である。

今年度の重点目標	今年度目標	今年度評価	前年度実績	達成度
学習指導要領の対応状況	70	62	64	未達成
新しい教育への取り組み	85	79	83	未達成
国際理解・交流	75	79	77	達成

今回は、残念ながら2つの目標が未達成であった。「**学習指導要領の対応状況**」については新カリキュラムが完成年度を迎え、すべての学年で、(学校、教科)ルーブリックや三観点評価を実施しているが、実際の運用においては、まだまだ理解が十分でない点があったのではないかとと思われる。

「**新しい教育への取り組み**」に関しては、教員のICTスキルも非常に高くなり、タブレットを用いた授業やオンライン授業のどちらにも対応できるようになっている。また「公開研究授業」は今年度8度目の実施となるが、前年度に引き続き外部の参加者を招待し、「生徒主体のウェルビーイングを意識した授業デザイン」というテーマで実施した。今年度はアンカンファレンスを実施し、様々なテーマについて、本校教員と外部の参加者が意見を交換した。「**国際理解・交流**」については、姉妹校を中心とした来校が増え、生徒たちが海外の学生と交流する機会が多くなっている。また、円安の影響で人数は減っているものの(オーストラリア、ニュージーランド3名)、ターム留学に参加する生徒がいることも当たり前になってきている。摂南大学と協力して、アメリカの大学の学生(11名)による教育実習を受け入れたこともよい刺激となった。来年度から始まるグローバル探究コースは1期生として42名が集まり、生徒たちの興味・関心の高さがうかがえる。

以上

2024 年度 常翔学園中学校・高等学校自己評価

将来像	人々が幸福で平和に生きることができる世の中を創るため、生徒中心の教育を重視し、グローバルシチズンシップを身につけた自律的学習者を育成する教育推進校となる。
今年度の重点目標	・自律的学習者育成に向けた授業改善と生徒の主体性を重視する教育 ・学園内連携を更に発展させ、目的ある進学を実現する進路支援へ ・海外修学旅行の目的明確化と語学研修・姉妹校交流等の充実

より良い学校作りのため、恐れ入りますが以下のアンケートにお答えください。

下記のそれぞれの評価項目について、1～4の評価のうちいずれか1つを答えてください。
回答は Google Forms でお答えください。

調査 1 (基礎調査)

職 域	1. 専任教諭	2. 特任教諭	3. 事務職員
本学園の勤務年数	1. 10 年未満	2. 20 年未満	3. 20 年以上

調査 2 (自己評価)

1:よくあてはまる 2:ややあてはまる 3:あまりあてはまらない 4:まったくあてはまらない

分類	評価項目	No	設問	評価 1つを選択する			
学校運営に関する事	建学の精神・愛校心	1	建学の精神が教職員、生徒、保護者によく浸透し、在校生、卒業生は学校に誇りを持っている。	1	2	3	4
	中学校・高校の経営	2	中学校・高校の予算、決算の仕組みや財務状況を意識した学校運営をしている。	1	2	3	4
	学園の各組織	3	評議員会、理事会など、学園の各組織の役割や機能について理解している。	1	2	3	4
	教職員の連携	4	事務職を含む教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて業務が遂行されている。	1	2	3	4
	学校間連携	5	学園のスケールメリットを生かし、他の設置校と協力し、魅力ある学校作りを実施している。	1	2	3	4
	会議の有効性	6	必要かつ適切に会議が設定され、有効で効率的な議論が行われている。	1	2	3	4
	地域交流	7	地域の自治体や住民との交流ができている。	1	2	3	4
	授業等公開状況	8	保護者などに授業や発表会を公開する機会があり、積極的に広報されている。	1	2	3	4
	教員の資質向上	9	授業力向上のため、教員間で授業を公開し、教科会などで意見交換を行っている。	1	2	3	4
	初任者のサポート状況	10	初任者等、経験の少ない教員を学校全体でサポートする体制が整備されてある。	1	2	3	4
	校内外の研修	11	校内外において、各教員が計画的、積極的に研修に参加し、教員間で情報を共有している。	1	2	3	4
	読書推進	12	図書館の利用促進を図るなど、読書指導に取り組んでいる。	1	2	3	4

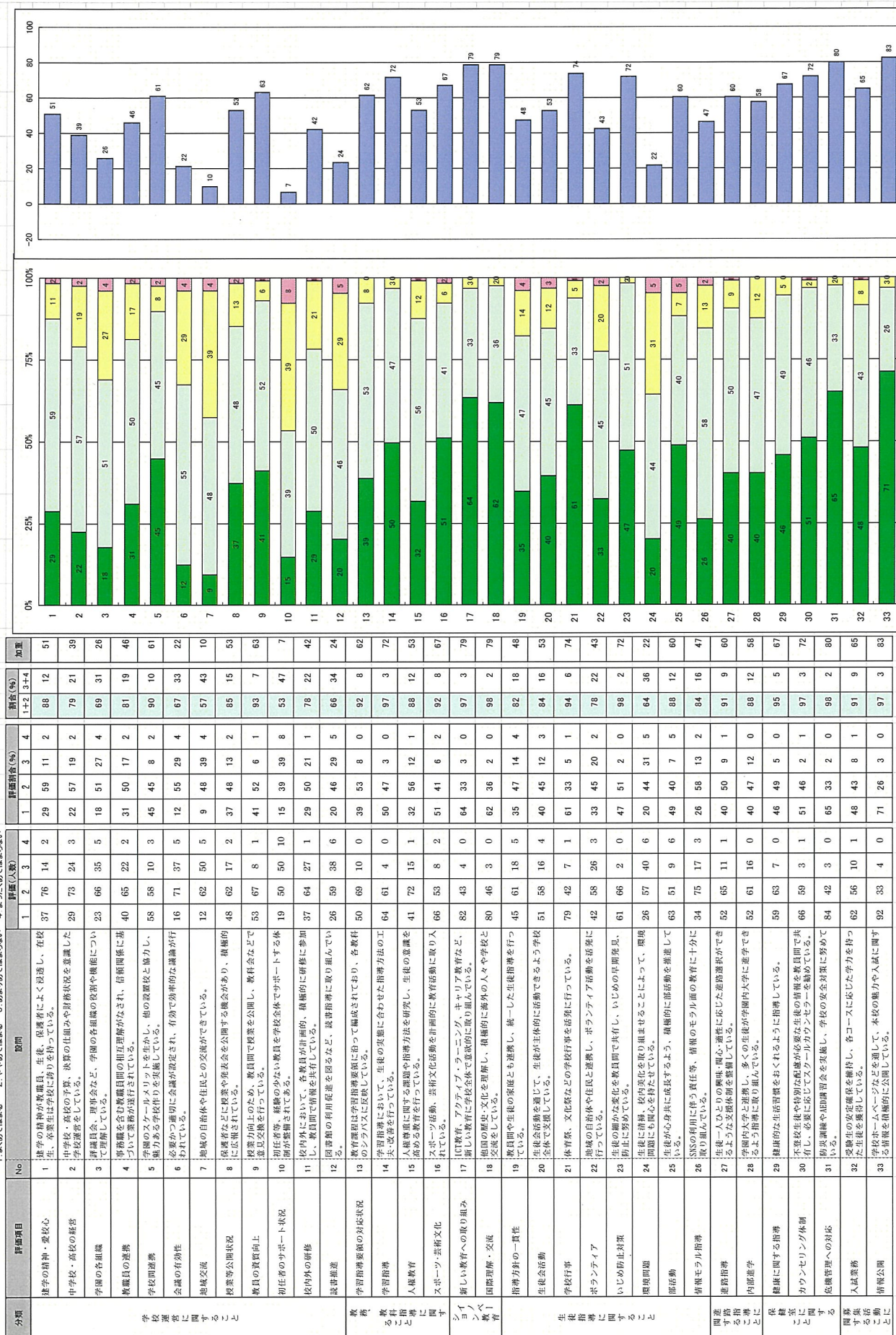
関すること 教務・教科指導に	学習指導要領の対応状況	13	教育課程は学習指導要領に沿って編成されており、各教科のシラバスに反映している。	1	2	3	4
	学習指導	14	学習指導において、生徒の実態に合わせた指導方法の工夫・改善を行っている。	1	2	3	4
	人権教育	15	人権尊重に関する課題や指導方法を研究し、生徒の意識を高める教育を行っている。	1	2	3	4
	スポーツ・芸術文化	16	スポーツ活動、芸術文化活動を計画的に教育活動に取り入れている。	1	2	3	4
育に 関すること イノベーション教	新しい教育への取り組み	17	ICT教育、アクティブ・ラーニング、キャリア教育など、新しい教育に学校全体で意欲的に取り組んでいる。	1	2	3	4
	国際理解・交流	18	他国の歴史・文化を理解し、積極的に海外の人々や学校と交流をしている。	1	2	3	4
生徒指導に 関すること	指導方針の一貫性	19	教員間や生徒の家庭とも連携し、統一した生徒指導を行っている。	1	2	3	4
	生徒会活動	20	生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動できるよう学校全体で支援している。	1	2	3	4
	学校行事	21	体育祭、文化祭などの学校行事を活発に行っている。	1	2	3	4
	ボランティア	22	地域の自治体や住民と連携し、ボランティア活動を活発に行っている。	1	2	3	4
	いじめ防止対策	23	生徒の細かな変化を教員間で共有し、いじめの早期発見、防止に努めている。	1	2	3	4
	環境問題	24	生徒に清掃、校内美化に取り組ませることによって、環境問題にも関心を持たせている。	1	2	3	4
	部活動	25	生徒が心身共に成長するよう、積極的に部活動を推進している。	1	2	3	4
	情報モラル指導	26	SNSの利用に伴う責任等、情報のモラル面の教育に十分に取り組んでいる。	1	2	3	4
進路指導に 関すること	進路指導	27	生徒一人ひとりの興味・関心・適性に応じた進路選択ができるような支援体制を整備している。	1	2	3	4
	内部進学	28	学園内大学と連携し、多くの生徒が学園内大学に進学できるよう指導に取り組んでいる。	1	2	3	4
保健室に 関すること	健康に関する指導	29	健康的な生活習慣をおくれるように指導している。	1	2	3	4
	カウンセリング体制	30	不登校生徒や特別な配慮が必要な生徒の情報を教員間で共有し、必要に応じてスクールカウンセラーを勧めている。	1	2	3	4
	危機管理への対応	31	防災訓練やAED講習会を実施し、学校の安全対策に努めている。	1	2	3	4
募集活動に 関すること	入試業務	32	受験生の安定確保を維持し、各コースに応じた学力を持った生徒を獲得している。	1	2	3	4
	情報公開	33	学校ホームページなどを通して、本校の魅力や入試に関する情報を積極的に公開している。	1	2	3	4

ご協力ありがとうございました。

アンケート回答入力期限： 1月22日（水）

資料 2

1.よみかたは、2.ややめてはまる、3.あまりあてはまらない、4.まったくあてはまらない



資料 3

勤務年数別比較 赤：5pt 以上プラス 黄：5pt 以上マイナス

1:よくあてはまる			2:ややあてはまる			3:あまりあてはまらない			4:まったくあてはまらない			全体		10年未満		20年未満		20年以上	
分類	評価項目	No	設問	加重		加重		加重		加重		2023	2024	2023	2024	2023	2024	2023	2024
				2023	2024	2023	2024	2023	2024	2023	2024								
学校運営に関すること	建学の精神・愛校心	1	建学の精神が教職員、生徒、保護者によく浸透し、在校生、卒業生は学校に誇りを持っている。	54	51	44	42	65	59	63	61								
	中学校・高校の経営	2	中学校・高校の予算、決算の仕組みや財務状況を意識した学校運営をしている。	44	39	30	25	55	59	60	49								
	学園の各組織	3	評議員会、理事会など、学園の各組織の役割や機能について理解している。	37	26	14	6	62	30	58	57								
	教職員の連携	4	事務職を含む教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて業務が遂行されている。	56	46	54	31	65	64	51	58								
	学校間連携	5	学園のスケールメリットを生かし、他の設置校と協力し、魅力ある学校作りを実施している。	52	61	51	57	62	64	47	66								
	会議の有効性	6	必要かつ適切に会議が設定され、有効で効率的な議論が行われている。	32	22	23	15	48	25	36	30								
	地域交流	7	地域の自治体や住民との交流ができています。	11	10	1	6	42	7	6	18								
	授業等公開状況	8	保護者などに授業や発表会を公開する機会があり、積極的に広報されている。	44	53	40	53	50	43	47	61								
	教員の資質向上	9	授業力向上のため、教員間で授業を公開し、教科会などで意見交換を行っている。	65	63	52	57	75	66	82	71								
	初任者のサポート状況	10	初任者等、経験の少ない教員を学校全体でサポートする体制が整備されてある。	7	7	-9	8	20	-11	25	18								
	校内外の研修	11	校内外において、各教員が計画的、積極的に研修に参加し、教員間で情報を共有している。	56	42	47	37	68	38	64	54								
	読書推進	12	図書館の利用促進を図るなど、読書指導に取り組んでいる。	30	24	16	13	43	30	44	37								
教務、教科指導に関すること	学習指導要領の対応状況	13	教育課程は学習指導要領に沿って編成されており、各教科のシラバスに反映している。	64	62	48	51	82	68	81	75								
	学習指導	14	学習指導において、生徒の実態に合わせた指導方法の工夫・改善を行っている。	69	72	63	67	73	71	76	79								
	人権教育	15	人権尊重に関する課題や指導方法を研究し、生徒の意識を高める教育を行っている。	45	53	35	47	58	39	54	74								
	スポーツ・芸術文化	16	スポーツ活動、芸術文化活動を計画的に教育活動に取り入れている。	68	67	59	54	75	79	81	80								
シヨノベール教育	新しい教育への取り組み	17	ICT教育、アクティブ・ラーニング、キャリア教育など、新しい教育に学校全体で意欲的に取り組んでいる。	83	79	80	71	92	84	83	87								
	国際理解・交流	18	他国の歴史・文化を理解し、積極的に海外の人々と学校と交流をしている。	77	79	73	75	87	86	75	80								
生徒指導に関すること	指導方針の一貫性	19	教員間や生徒の家庭とも連携し、統一した生徒指導を行っている。	48	48	39	44	48	52	64	50								
	生徒会活動	20	生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動できるよう学校全体で支援している。	54	53	46	47	67	48	60	66								
	学校行事	21	体育祭、文化祭などの学校行事を活発に行っている。	70	74	59	68	82	71	81	86								
	ボランティア	22	地域の自治体や住民と連携し、ボランティア活動を活発に行っている。	23	43	13	41	33	36	32	50								
	いじめ防止対策	23	生徒の細かな変化を教員間で共有し、いじめの早期発見、防止に努めている。	66	72	59	71	77	70	71	76								
	環境問題	24	生徒に清掃、校内美化に取り組ませることによって、環境問題にも関心を持たせている。	25	22	7	8	38	23	46	45								
	部活動	25	生徒が心身共に成長するよう、積極的に部活動を推進している。	54	60	37	48	73	66	69	76								
	情報モラル指導	26	SNSの利用に伴う責任等、情報のモラル面の教育に十分にに取り組んでいる。	44	47	32	42	60	39	53	59								
進路指導と関連すること	進路指導	27	生徒一人ひとりの興味・関心・適性に応じた進路選択ができるような支援体制を整備している。	64	60	54	56	75	57	74	70								
	内部進学	28	学園内大学と連携し、多くの生徒が学園内大学に進学できるよう指導に取り組んでいる。	59	58	54	53	72	59	57	64								
保健室に関すること	健康に関する指導	29	健康的な生活習慣をおくられるように指導している。	71	67	66	63	72	68	81	74								
	カウンセリング体制	30	不登校生徒や特別な配慮が必要な生徒の情報を教員間で共有し、必要に応じてスクールカウンセラーを勧めている。	71	72	60	62	83	86	82	79								
	危機管理への対応	31	防災訓練やAED講習会を実施し、学校の安全対策に努めている。	85	80	81	74	92	86	89	87								
関係活動と関連すること	入試業務	32	受験生の安定確保を維持し、各コースに応じた学力を持った生徒を獲得している。	65	65	57	54	70	79	75	74								
	情報公開	33	学校ホームページなどを通して、本校の魅力や入試に関する情報を積極的に公開している。	85	83	85	78	88	89	83	86								
			平均値	53.9	53.3	44.5	46.2	65.2	55.5	62.1	63.5								

職域別比較 赤：5pt 以上プラス 黄：5pt 以上マイナス

1:よくあてはまる 2:ややあてはまる 3:あまりあてはまらない 4:まったくあてはまらない

分類	評価項目	No	説明	全体		専任教諭		特任教諭		事務職員	
				加重		加重		加重		加重	
				2023	2024	2023	2024	2023	2024	2023	2024
学校運営に関すること	建学の精神・愛校心	1	建学の精神が教職員、生徒、保護者によく浸透し、在校生、卒業生は学校に誇りを持っている。	54	51	54	57	47	37	73	53
	中学校・高校の経営	2	中学校・高校の予算、決算の仕組みや財務状況を意識した学校運営をしている。	44	39	55	49	25	15	37	43
	学園の各組織	3	評議員会、理事会など、学園の各組織の役割や機能について理解している。	37	26	50	37	10	-4	47	35
	教職員の連携	4	事務職を含む教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて業務が遂行されている。	56	46	57	59	52	28	60	30
	学校間連携	5	学園のスケールメリットを生かし、他の設置校と協力し、魅力ある学校作りを実施している。	52	61	53	62	51	56	50	68
	会議の有効性	6	必要かつ適切に会議が設定され、有効で効率的な議論が行われている。	32	22	31	19	35	13	33	45
	地域交流	7	地域の自治体や住民との交流ができています。	11	10	6	8	14	4	33	28
	授業等公開状況	8	保護者などに授業や発表会を公開する機会があり、積極的に広報されている。	44	53	42	52	38	53	73	58
	教員の資質向上	9	授業力向上のため、教員間で授業を公開し、教科会などで意見交換を行っている。	65	63	73	71	44	46	80	65
	初任者のサポート状況	10	初任者等、経験の少ない教員を学校全体でサポートする体制が整備されている。	7	7	8	3	-8	-1	47	35
	校内外の研修	11	校内外において、各教員が計画的、積極的に研修に参加し、教員間で情報を共有している。	56	42	58	43	50	28	67	65
	読書推進	12	図書館の利用促進を図るなど、読書指導に取り組んでいる。	30	24	32	29	19	-1	50	45
教務・教科指導に関すること	学習指導要領の対応状況	13	教育課程は学習指導要領に沿って編成されており、各教科のシラバスに反映している。	64	62	75	64	40	54	73	65
	学習指導	14	学習指導において、生徒の実態に合わせた指導方法の工夫・改善を行っている。	69	72	71	74	61	68	70	70
	人権教育	15	人権尊重に関する課題や指導方法を研究し、生徒の意識を高める教育を行っている。	45	53	44	53	38	43	73	70
	スポーツ・芸術文化	16	スポーツ活動、芸術文化活動を計画的に教育活動に取り入れている。	68	67	71	75	51	50	93	65
インバウンド教育	新しい教育への取り組み	17	ICT教育、アクティブ・ラーニング、キャリア教育など、新しい教育に学校全体で意欲的に取り組んでいる。	83	79	85	83	74	66	97	83
	国際理解・交流	18	他国の歴史・文化を理解し、積極的に海外の人々や学校と交流をしている。	77	79	77	81	68	69	90	88
生徒指導に関すること	指導方針の一貫性	19	教員間や生徒の家庭とも連携し、統一した生徒指導を行っている。	48	48	50	44	31	38	83	78
	生徒会活動	20	生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動できるよう学校全体で支援している。	54	53	53	49	43	47	90	78
	学校行事	21	体育祭、文化祭などの学校行事を活発に行っている。	70	74	69	74	61	66	93	88
	ボランティア	22	地域の自治体や住民と連携し、ボランティア活動を活発に行っている。	23	43	20	37	21	46	47	60
	いじめ防止対策	23	生徒の細かな変化を教員間で共有し、いじめの早期発見、防止に努めている。	66	72	74	73	48	72	77	68
	環境問題	24	生徒に清掃、校内美化に取り組ませることによって、環境問題にも関心を持たせている。	25	22	36	24	7	16	20	25
	部活動	25	生徒が心身共に成長するよう、積極的に部活動を推進している。	54	60	60	63	31	47	83	75
	情報モラル指導	26	SNSの利用に伴う責任等、情報のモラル面の教育に十分に取り組んでいる。	44	47	45	47	32	46	73	48
進路指導に関すること	進路指導	27	生徒一人ひとりの興味・関心・適性に応じた進路選択ができるような支援体制を整備している。	64	60	70	60	46	59	77	65
	内部進学	28	学園内大学と連携し、多くの生徒が学園内大学に進学できるよう指導に取り組んでいる。	59	58	62	60	49	50	60	63
保健室に関すること	健康に関する指導	29	健康的な生活習慣をおくめるように指導している。	71	67	73	69	66	65	77	65
	カウンセリング体制	30	不登校生徒や特別な配慮が必要な生徒の情報を教員間で共有し、必要に応じてスクールカウンセラーを動いている。	71	72	79	81	50	57	77	65
	危機管理への対応	31	防災訓練やAED講習会を実施し、学校の安全対策に努めている。	85	80	86	85	79	69	90	83
開募する活動に	入試業務	32	受験生の安定確保を維持し、各コースに応じた学力を持った生徒を獲得している。	65	65	68	74	50	44	83	68
	情報公開	33	学校ホームページなどを通して、本校の魅力や入試に関する情報を積極的に公開している。	85	83	86	86	79	79	93	75
平均値				53.9	53.3	56.8	55.9	42.5	43.1	68.8	60.8

資料 4

加重ポイントの前年比較

評価指標			改善度(前年度評価Aを除く)		
A	ほぼ達成	加重ポイント 65以上	A	10以上の上昇	
B	概ね良好	加重ポイント 40以上	B	5以上の上昇	
C	改善の余地あり	加重ポイント 25以上	C	5未満の上昇	
D	不十分	加重ポイント 25未満	D	下降	

分類	評価の観点	No	評価項目	加重ポイント			評 価		
				前年度	2024年度	増減	前年度	2024年度	改善度
学校運営に関すること	建学の精神・愛校心	1	建学の精神が教職員、生徒、保護者によく浸透し、在校生、卒業生は学校に誇りを持っている。	53.8	51.2	-2.6	B	B	D
	中学校・高校の経営	2	中学校・高校の予算、決算の仕組みや財務状況を意識した学校運営をしている。	43.6	39.1	-4.5	B	C	D
	学園の各組織	3	評議員会、理事会など、学園の各組織の役割や機能について理解している。	36.8	26.0	-10.9	C	C	D
	教職員の連携	4	事務職を含む教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて業務が遂行されている。	56.0	46.1	-9.9	B	B	D
	学校間連携	5	学園のスケールメリットを生かし、他の設置校と協力し、魅力ある学校作りを実施している。	52.3	61.2	9.0	B	B	B
	会議の有効性	6	必要かつ適切に会議が設定され、有効で効率的な議論が行われている。	32.3	21.7	-10.6	C	D	D
	地域交流	7	地域の自治体や住民との交流ができています。	11.3	10.1	-1.2	D	D	D
	授業等公開状況	8	保護者などに授業や発表会を公開する機会があり、積極的に広報されている。	44.4	53.1	8.7	B	B	B
	教員の資質向上	9	授業力向上のため、教員間で授業を公開し、教科会などで意見交換を行っている。	65.4	63.2	-2.2	A	B	---
	初任者のサポート状況	10	初任者等、経験の少ない教員を学校全体でサポートする体制が整備されている。	6.8	7.0	0.2	D	D	C
	校内外の研修	11	校内外において、各教員が計画的、積極的に研修に参加し、教員間で情報を共有している。	56.4	42.2	-14.1	B	B	D
	読書推進	12	図書館の利用促進を図るなど、読書指導に取り組んでいる。	29.7	23.6	-6.1	C	D	D
教務、教科指導に関すること	学習指導要領の対応状況	13	教育課程は学習指導要領に沿って編成されており、各教科のシラバスに反映している。	64.3	61.6	-2.7	B	B	D
	学習指導	14	学習指導において、生徒の実態に合わせた指導方法の工夫・改善を行っている。	68.8	71.7	2.9	A	A	---
	人権教育	15	人権尊重に関する課題や指導方法を研究し、生徒の意識を高める教育を行っている。	45.5	53.1	7.6	B	B	B
	スポーツ・芸術文化	16	スポーツ活動、芸術文化活動を計画的に教育活動に取り入れている。	68.4	67.1	-1.4	A	A	---
キャリア教育	新しい教育への取り組み	17	ICT教育、アクティブ・ラーニング、キャリア教育など、新しい教育に学校全体で意欲的に取り組んでいる。	83.5	78.7	-4.8	A	A	---
	国際理解・交流	18	他国の歴史・文化を理解し、積極的に海外の人々や学校と交流をしている。	76.7	78.7	2.0	A	A	---
生徒指導に関すること	指導方針の一貫性	19	教員間や生徒の家庭とも連携し、統一した生徒指導を行っている。	47.7	47.7	-0.1	B	B	D
	生徒会活動	20	生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動できるよう学校全体で支援している。	54.1	52.7	-1.4	B	B	D
	学校行事	21	体育祭、文化祭などの学校行事を活発に行っている。	69.9	74.0	4.1	A	A	---
	ボランティア	22	地域の自治体や住民と連携し、ボランティア活動を活発に行っている。	22.9	42.6	19.7	D	B	A
	いじめ防止対策	23	生徒の細かな変化を教員間で共有し、いじめの早期発見、防止に努めている。	66.2	72.1	5.9	A	A	---
	環境問題	24	生徒に清掃、校内美化に取り組ませることによって、環境問題にも関心を持たせている。	24.8	22.1	-2.7	D	D	D
	部活動	25	生徒が心身共に成長するよう、積極的に部活動を推進している。	54.1	60.5	6.3	B	B	B
	情報モラル指導	26	SNSの利用に伴う責任等、情報のモラル面の教育に十分にに取り組んでいる。	44.0	46.5	2.5	B	B	C
進路指導に関すること	進路指導	27	生徒一人ひとりの興味・関心・適性に応じた進路選択ができるような支援体制を整備している。	63.9	60.5	-3.4	B	B	D
	内部進学	28	学園内大学と連携し、多くの生徒が学園内大学に進学できるよう指導に取り組んでいる。	58.6	57.8	-0.9	B	B	D
保健室に関すること	健康に関する指導	29	健康的な生活習慣をおくめるように指導している。	71.4	67.4	-4.0	A	A	---
	カウンセリング体制	30	不登校生徒や特別な配慮が必要な生徒の情報を教員間で共有し、必要に応じてスクールカウンセラーを動めている。	71.1	72.1	1.0	A	A	---
	危機管理への対応	31	防災訓練やAED講習会を実施し、学校の安全対策に努めている。	85.3	80.2	-5.1	A	A	---
募集活動に関すること	入試業務	32	受験生の安定確保を維持し、各コースに応じた学力を持った生徒を獲得している。	64.7	65.1	0.5	B	A	C
	情報公開	33	学校ホームページなどを通して、本校の魅力や入試に関する情報を積極的に公開している。	85.3	82.6	-2.8	A	A	---
平 均				53.9	53.3	-0.6			

プラス評価の前年比較

評価指標

A	ほぼ達成	プラス評価 80%以上
B	概ね良好	プラス評価 60%以上
C	改善の余地あり	プラス評価 40%以上
D	不十分	プラス評価 40%未満

改善度(前年度評価Aを除く)

A	5%以上の上昇
B	0～5%の上昇
C	-5～0%の下降
D	-5% 以下

分類	評価の観点	No	評価項目	プラス評価の割合(%)			評 価		
				前年度	2024年度	増減	前年度	2024年度	改善度
学校運営に関すること	建学の精神・愛校心	1	建学の精神が教職員、生徒、保護者によく浸透し、在校生、卒業生は学校に誇りを持っている。	88.0	87.6	-0.4	A	A	--
	中学校・高校の経営	2	中学校・高校の予算、決算の仕組みや財務状況を意識した学校運営をしている。	82.0	79.1	-2.9	A	B	--
	学園の各組織	3	評議員会、理事会など、学園の各組織の役割や機能について理解している。	75.2	69.0	-6.2	B	B	D
	教職員の連携	4	事務職を含む教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて業務が遂行されている。	88.0	81.4	-6.6	A	A	--
	学校間連携	5	学園のスケールメリットを生かし、他の設置校と協力し、魅力ある学校作りを実施している。	84.2	89.9	5.7	A	A	--
	会議の有効性	6	必要かつ適切に会議が設定され、有効で効率的な議論が行われている。	72.9	67.4	-5.5	B	B	D
	地域交流	7	地域の自治体や住民との交流ができています。	55.6	57.4	1.7	C	C	B
	授業等公開状況	8	保護者などに授業や発表会を公開する機会があり、積極的に広報されている。	76.7	85.3	8.6	B	A	A
	教員の資質向上	9	授業力向上のため、教員間で授業を公開し、教科会などで意見交換を行っている。	91.0	93.0	2.0	A	A	--
	初任者のサポート状況	10	初任者等、経験の少ない教員を学校全体でサポートする体制が整備されてある。	53.4	53.5	0.1	C	C	B
	校内外の研修	11	校内外において、各教員が計画的、積極的に研修に参加し、教員間で情報を共有している。	88.7	78.3	-10.4	A	B	--
	読書推進	12	図書館の利用促進を図るなど、読書指導に取り組んでいる。	71.4	65.9	-5.5	B	B	D
教務、教科指導に関すること	学習指導要領の対応状況	13	教育課程は学習指導要領に沿って編成されており、各教科のシラバスに反映している。	91.7	92.2	0.5	A	A	--
	学習指導	14	学習指導において、生徒の実態に合わせた指導方法の工夫・改善を行っている。	95.5	96.9	1.4	A	A	--
	人権教育	15	人権尊重に関する課題や指導方法を研究し、生徒の意識を高める教育を行っている。	81.2	87.6	6.4	A	A	--
	スポーツ・芸術文化	16	スポーツ活動、芸術文化活動を計画的に教育活動に取り入れている。	93.2	92.2	-1.0	A	A	--
シオンベール教育	新しい教育への取り組み	17	ICT教育、アクティブ・ラーニング、キャリア教育など、新しい教育に学校全体で意欲的に取り組んでいる。	97.7	96.9	-0.8	A	A	--
	国際理解・交流	18	他国の歴史・文化を理解し、積極的に海外の人々や学校と交流をしている。	94.7	97.7	2.9	A	A	--
生徒指導に関すること	指導方針の一貫性	19	教員間や生徒の家庭とも連携し、統一した生徒指導を行っている。	82.0	82.2	0.2	A	A	--
	生徒会活動	20	生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動できるよう学校全体で支援している。	84.2	84.5	0.3	A	A	--
	学校行事	21	体育祭、文化祭などの学校行事を活発に行っている。	92.5	93.8	1.3	A	A	--
	ボランティア	22	地域の自治体や住民と連携し、ボランティア活動を活発に行っている。	64.7	77.5	12.9	B	B	A
	いじめ防止対策	23	生徒の細かな変化を教員間で共有し、いじめの早期発見、防止に努めている。	91.0	98.4	7.5	A	A	--
	環境問題	24	生徒に清掃、校内美化を取り組ませることによって、環境問題にも関心を持たせている。	63.2	64.3	1.2	B	B	B
	部活動	25	生徒が心身共に成長するよう、積極的に部活動を推進している。	81.2	88.4	7.2	A	A	--
	情報モラル指導	26	SNSの利用に伴う責任等、情報のモラル面の教育に十分にに取り組んでいる。	79.7	84.5	4.8	B	A	B
進路指導に関すること	進路指導	27	生徒一人ひとりの興味・関心・適性に応じた進路選択ができるような支援体制を整備している。	90.2	90.7	0.5	A	A	--
	内部進学	28	学園内大学と連携し、多くの生徒が学園内大学に進学できるよう指導に取り組んでいる。	85.7	87.6	1.9	A	A	--
保健室に関すること	健康に関する指導	29	健康的な生活習慣をおくれるように指導している。	97.0	94.6	-2.4	A	A	--
	カウンセリング体制	30	不登校生徒や特別な配慮が必要な生徒の情報を教員間で共有し、必要に応じてスクールカウンセラーを勧めている。	94.7	96.9	2.2	A	A	--
	危機管理への対応	31	防災訓練やAED講習会を実施し、学校の安全対策に努めている。	99.2	97.7	-1.6	A	A	--
募集活動に関すること	入試業務	32	受験生の安定確保を維持し、各コースに応じた学力を持った生徒を獲得している。	91.0	91.5	0.5	A	A	--
	情報公開	33	学校ホームページなどを通して、本校の魅力や入試に関する情報を積極的に公開している。	98.5	96.9	-1.6	A	A	--
平 均				84.1	84.9	0.8			